

平成26年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」第4回「3Rをマスターしよう！」

(テーマ：ごみ・3R)

□実施日時 平成26年8月5日(火) 9時45分～16時15分

□受講者数 11名

□実施場所 東京都廃棄物埋立管理事務所

□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局(研究所)から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局環境政策課(企画調整係主事武元)から開講挨拶等

開催挨拶



2. ゲストティーチャーからの講義及び廃棄物処分場内の見学

(ゲストティーチャー：東京都廃棄物埋立管理事務所

広報・連絡調整担当係長 石井 雅子)

- ・東京都廃棄物埋立処分場(中央防波堤外側埋立処分場・新海面処分場)概要説明
- ・処分場のビデオ視聴
- ・東京都廃棄物埋立処分場環境学習ホール見学・解説
- ・東京都廃棄物埋立管理事務所のバスで中防内側の中間処理施設を見学後、中防外側最終処分場を見学



環境学習ホールで
解説から説明

埋立管理事務所からの概要説明





不燃物処理施設



外側処分場を展望台から眺める参加者

【午後】

3. 東京都環境科学研究所 中防分室見学

(ゲストティーチャー：東京都環境科学研究所研究員 辰市 祐久)

- ・東京都の廃棄物の現状と都が行っているゴミに含まれている希少金属など再生可能資源の研究について説明があった。



環境科学研究所研究員から廃棄物から希少金属回収を回収するための実験について学ぶ

4 環境学習プログラム「3Rをマスターしよう」の紹介及び実習

(講師：特定非営利活動法人 環境学習研究会理事長 谷村春樹)

(1) 「環境学習の意義」について

「昔の人は、生活の知恵や言い伝、道具類までも、親から子へと代々受け継いできた。例えば八百万の神など目に見えないものでも信じ大切にすることが、日々^{やおよろず}の生活の中で当然のこととしてあった。

しかし、大量生産・大量消費の現在の生活では、こうした目に見えないことへの畏敬の念や大切にすることへの気持ちなども薄れ、そうしたことを知る機会や感じる機会が激減し、子供たちが日常生活の中で感性を育む大切なチャンスを失ってしまっている。

環境学習では、「実際に体験する学習」を行うこと、できればそれを「自分の住む地域」で行うこと、「ふるさと意識を大切に」することなどが大切であり、それによって、子ども達の「ものを見て考える力」が養われ、感性が磨かれる。



講義風景

(2) 環境学習プログラム「3Rをマスターしよう①もったいない編」

子供達に物を大切に使う心や消費生活を考えさせるきっかけとすることを狙いとして、自分たちの生活の中で出るゴミを分類し、ゴミとは何か、本当にゴミなのか？ ゴミとなったものはどうなるのか？を考えさせる。

その後、自分たちの生活の中での3Rを楽しみながら考えさせる一手法として「もったいない新聞」作りを行った。



「もったいない新聞」作り

(3) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

完成した「もったいない新聞」を各班ごとに発表するとともに、この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、受講者各人が発表し、講師がコメントをして、受講者間で情報を共有した。



各班からの「もったいない新聞」とまとめの発表・情報交換

主な発表

- ・社会科見学をより有効的に行える手助けになる。
- ・日常の生活との結びつきがよく理解できた。
- ・社会科でも環境学種に繋がることがよくわかった。

4. 事務連絡、アンケート記入等 (事務局)

アンケート提出後解散